幼兒教育　第十九卷第八號　大正八年八月一日發行

「生きた教育を」

婦人の友主幹　羽仁もと子談

私の考では子供の時分からなるべく種々の場合に直接遭はせる機會をつくつて、多方面に經驗させる樣に心掛ける事が誠に大切な事であると思ひます。世の中は決して單純なものではございません、たゑずおこる周圍の變化動搖の中にあつて、まごつかず、あはてず身を處して行くには決して溫室の花の樣な育ち方では間に合ひません。多樣な生活の形式の僅かに一方面にだけしかあてはまらない樣では困ります。それには子供の時分からなるべく單調一律の生活をさせず出來得る限りさまゞの場合に、また多くの人に接する樣にして子供がもつてゐる能力を一方に偏せしめない樣にしたいと思ひます。嘗つて私の所に居つた女中の一人に、私はいつもこれを感ずるのでございます。その女中の一人兒として育てられ、大層に何かよく出來、機用にものをするのですが、いかにも變化の少ない家庭に育ちましたために、境遇の變化に處する事が出來ず、言ひつけた事は寸分の間違ひもなく致しますが、扨一寸變つた事になると、さつぱり融通がつかず、自らその變化に對して適當の判斷をして之を處する事が出來ませんで

した。

これに就ても私は子供を幼稚園に出す事を子供、のために誠に幸であると思ひます、どんなに複雑で多人數で兄弟が多くて召使が多い家庭でも、一つの家庭では其變化は知れたものでございます。幼稚園ではいろ〳〵の家庭から、いろ〳〵の子供が來て居りますし、子供相當に其多樣な變化の中にあつて、しらず〳〵自分の能力を多方面に引出されます。一寸した例で私のよく聞く事で申しましても、家に居る中はなか〳〵元氣で活發で、人におぢたり、はにかんだりする事はないと母親も信じて、あの兒ならば大丈夫と思つてさて幼稚園に出して見ると、案外に氣がよわくて、入園後永い間附添の手をはなさず、一人で遊ばれずによく泣くと云ふ樣なこともあります。これも幼稚園に出して見る、卽ち變化多い境遇におくと云ふ事がなければ自分の子供のそうした性質もわからずにすんでしまひます。これが小學校になりますと、子供もさすがに氣まりがわるくて、泣いたり附添の手にかぢりついて居たりはしますまいが、あらはさないだけで氣のよわい兒はやはりそうした氣持をもつてゐるのでございます。

それ故、出來る丈早くから、子供はなるべく變化の多い中に出したいものでございます。そしてありのまゝのその兒の性情を各方面から了解したいとおもひます。子供の心はわかつた樣でなか〳〵わからないものでございます。いろ〳〵の事にぶつかる事がなければ。そのわからない心はます〳〵わからなくなりますから、なるたけ多方面の事にあはせて一つ一つその經驗からその性情を知つて、知つた斗りでなしに、之に適當の敎育的の所置をとつて行きたいと思ふのでございます。

それから、また子供の心は誠にやわらかいものでございます。可塑性とでも申しますか、どんな形にでもはまりやすいものでございます。從つて

傷られる事も容易いかはりに、またその傷いた心失望した心をとりなほさせて、希望に充たさせる事もまたやすいのでございます。

私は子供をいろ〳〵の經驗にあはせるのがよいとは申しましたが、會せ放なしでちつとも之をかまつてやらない樣ではそれこそ大變でございます。經驗させたらば、一々深い洞察力を以てその經驗して居る事、又その結果を見つめて、之に對して充分の同情をもつてあたらなければなりません。成功の經驗にも失敗の經驗にも。ことに私共母親として氣をつけねばならない事は、子供が失敗の經驗をもつた時でございます。失望したくるしさは實に可愛想でございます。しかし、子供は何か得意な時には爭つて母親に告げるものですが失意の時には兎角だまつて居る事が多い、この時に母親はうつかりして居ると、其の失望をさせたまゝで顧ず、子供はます〳〵おぢけてしまつて母親にます〳〵打あけにくゝなると云ふ事になります。例へば最近私の經驗致しました事で申しますならば小學校に通ふ子供ですが或時特に大切な繪のお淸書をしなければならなかつた時、生憎私が忙しい事のためいつも程、力になつて勵ます事もなく顧みる暇もなく、時を過しました。その上に丁度その繪をかく日曜日は宅の運動場で運動會がありますので皆大さわぎをしてをりました、其後そのお淸書がどうなつたとも私はつひ取まぎれてゐて聞きませんでした。所がその後この子が例になく算術の時も書取の時も不出來でした。私は氣がついて、いろ〳〵考へて見ると、初め大切な畫のお淸書をした時に、そのお淸書が少し出來がわるくて折角初め選拔でかゝせられたにも拘らず、結果は選にもれました。この事で大層失望したこの兒は、この事を母親にも告げず、慰られる事なしに、そのまゝで、一方に自信力も失つて、そのために次々と成績がわるいのでございました。これに氣のついた時、私は、人はいろ〳〵の經驗を

する事が貴い事、また得意の事ばかりつづくものでない事など話しますと、子供も大に元氣づいてまた一生けん命する樣になりました。

これは幼稚園の子供にも同じであらうと思ひます。注意深い母親ならば、我子がどんな經驗をしてどんな心持ちにあるかはよくわかる事であらうと思ひます。なるべく多く經驗させる、しかし一つ一つの經驗をよい方に導いてやらなければなりません。よく世間で相當に謂ゆる熱心である家庭にそだつた兒に、思ひがけなく不良少年が出る事をきゝますが、私の思ひますにはこれは或は私が子が失意の時に深い同情をもち、力になつてやるだけの深い心がたらないためではなからうかと思ひます。一つの事に失敗して、その失望のいたましさに在る人が癒され勵まされる事なくして、だん〳〵自信がなくなり、失望の經驗をかさねれば、つひにはそのたよりない心を打あける所をうしなつたまゝで兩親の心からはなれて行くのでありますまいか。

これと關聯して思ひます事は叱ると云ふ事でございます、子供はどう云ふものですか大變に叱られると云ふ事を恐れます。失意の時、失敗の經驗をした子供が、母親にだまつてただ一人で困つてゐると云ふのもやはり意識してか或は殆んど無意識でも「叱られる」といふ心配をするからでございませう。實際これは困つた事で、得意の時には云はなくても失意の時には母親の所へかけこんで慰められたいと云ふ心をおこす樣になつてほしいと思ひます。ところが實際子供は何か失敗すると母親からさけ樣とする傾向がどうも一般にある樣です、それですから、親の方から子供を深く見る樣にして、あのやはらかいやさしい心、一寸の事にも傷きやすい心を察してやる樣にしなければなりません。何だか今日は活潑でないと云ふ事、また云ふに云はれない子供の心の動搖は、それこそ云はずかたらずに注意ぶかい母親なり幼稚園の先

生なりにはわかると思ひます、この時に早くこちらからその苦しさを思ひやつて、靜かにやさしくいたはり慰め、また導いてやる樣にすれば、子供は次第に失敗の經驗にも恐れなく母の所へかけこんで慰めくれる心持ちになると思ひます、これは餘程幼さい頃から氣をつけませんと幼さければおさない丈感ずる事が深いものですからそれをそのまゝ氣がつかずに打すてゝおけばやがて失意の時には一人くるしむと云ふ淋しい心になつてしまいませう。子供は自分の父母に對してさへ叱られると云ふ事を不思議な程恐れるものでございます。

まして、兩親よりも一層嚴格な感じを不識の間に持つて居る幼稚園の先生に對して、一層この恐れはつよかろうと思ひます。よく子供が「先生に叱られたからもう幼稚園に行かれない」と申しますびつくりして幼稚園の先生に聞いて見ると一向叱つた覺るはない、ただ大聲に誰さんを呼んだ事があつたと云ふ樣なことで笑つてすむ事もありますが、實際、先生は叱つたつもりもなく、一寸聲を大きく出しても子供は之を叱つたとゝる事があります。それ故これは餘程幼稚園の先生が氣をつけて、假りにも叱かると云ふ態度はとらない方がよいと思ひます、子供が怖れる心から親なり先生なりの心をはなれて行く程可愛想なまた恐しい事はありません、失意の時に慰められる相手をもたない心は、やがては、すさんだ暴れた冷たい心となつてしまふものであらうと存じます。

（談話……文責記者）

「おゝ人よ!! 人らしくあれ、これがあなたの最上の務である。幼きも老ひたるも高きも賤しきも、人らしくあれよ! 人間に關係するあらゆるものに對して、人らしくあれよ!」（エミール）